

タイ王国/アーコム前運輸大臣による国際セミナー
「交通分野における日・タイ関係の現状と展望」
運輸総合研究所 宿利会長 挨拶

皆さん、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。
本日は、当研究所主催の「タイ王国/アーコム前運輸大臣閣下による国際セミナー『交通分野における日・タイ関係の現状と展望』」に多くの皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず、本年7月まで5年間にわたってタイ王国の運輸・交通政策を推進してこられたアーコム・トゥームピッタヤー/パイシット前運輸大臣閣下に対しまして、このたびわざわざ来日いただき、本日のセミナーの開催にご協力賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。

また、国土交通省の藤田耕三事務次官及び藤井直樹国土交通審議官に対しても、公務ご多忙の中ご出席いただきましたことに感謝申し上げます。

本日は、アーコム前大臣による特別講演の後、日本大学の福田教授に対談者として参加していただき、モデレータとしてタイの交通関係学会であるATRANS（エイトランス：Asian Transportation Research Society）の福田 トウエンチャイ事務局長を交えて、アーコム前大臣と対談を行っていただくことにしております。

さて、ASEANの大都市がそれぞれ急激な経済成長と人口集中に直面し、都市交通の改善に取り組む中、タイ王国では、M-MAP2というバンコク首都圏都市鉄道のマスタートプランの改定作業が行われており、MRTのブルーライン、パープルラインに引き続き、レッドラインやオレンジラインなどの都市鉄道の整備が勢力的に進められています。さらに、高速鉄道の北線、北東線、東線などの整備や検討が行われるなど、交通分野では鉄道を中心としたインフラ整備が進められております。

このような状況の中、本日ご講演いただくアーコム前大臣は、2014年の運輸副大臣就任、2015年の運輸大臣就任以来本年7月までの5年間に及ぶ在職中、2016年に我が国の企業連合による初の車両と地上設備のトータルメンテナンス受注案件であるバンコクのパープルラインを開業させ、また、日本メーカーの車両を採用したレッドラインについては、前大臣自ら日本の車両工場まで何度も足を運んで車両のデザインを指示するなど、精力的に政策を推進してこられました。

また、バンコク中心部のバンスー中央駅周辺地区の都市開発について、国土交通省や JICA と協力してマスタープランを策定するとともに、この地区をスマートシティとして再開発することに尽力されました。さらに、2016年に石井前国土交通大臣との間で交通安全に関する覚書を締結し、日本の知見と経験を活かしつつ、交通事故が増える「ソンクラーン」という旧正月の時期に自ら率先して交通安全キャンペーンを実施するなど、タイの交通事故削減に向けて尽力されました。

これらはほんの一例ですが、タイ王国の運輸・交通政策の遂行に当たって、日本との協力関係の下で主導的な役割を果たしてこられたアーコム前大臣の講演と対談を通じて、タイ王国における交通・運輸政策の現状と将来の展望、加えて、今後のタイ王国と日本との連携のあり方について、最新の情報と課題の共有を図り、共に考察を深める機会にしたいと考えております。

ところで、この機会に、去る11月6日から当研究所の専務理事及びワシントン国際問題研究所長として、奥田哲也が就任しておりますことをご報告いたします。当研究所は、現在のワシントンD.C.を拠点とする活動に加えて、来年、ASEAN・インド地域における活動の拠点として、タイのバンコクに研究・調査活動の拠点を設置する予定であり、これまで以上に積極的に、交通・観光分野の国際的な研究・調査活動、情報発信や外国政府・研究機関との連携・交流に努めてまいりますので、皆様方のご指導・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本日のセミナーの開催については、日本財団の特別の支援を受けて実施することを申し添え、併せて、このセミナーが、本日まで参加いただいた多くの皆様方にとって有益なものとなり、さらには日本・タイ両国の関係の一層の強化に向けた手掛かりを与えるものとなりますことを期待して、私の挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございます。

(以上)